

平成27年度 尾瀬傷病事故統計

(尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター対応記録等から)



(ナデッ窪登山道で発生した傷病事故に消防と連携して救助活動を行う)

平成28年3月

公益財団法人 尾瀬保護財団

目 次

1	入山者数の状況.....	1
2	傷病事故の発生状況	2
	(1) 年別発生状況	2
	(2) 地区別発生状況	2
	(3) 原因別発生状況.....	3
	(4) シーズン別発生状況.....	3
	(5) 月別発生状況	4
	(6) 年齢別・男女別発生状況.....	4
	(7) 傷病者の居住地別発生状況	5
	(8) グループ人数別発生状況.....	6
	(9) 傷病事故の通報状況.....	6
3	救助活動.....	6
	(1) 救助隊出動状況	6
	(2) ヘリコプター活用状況	7

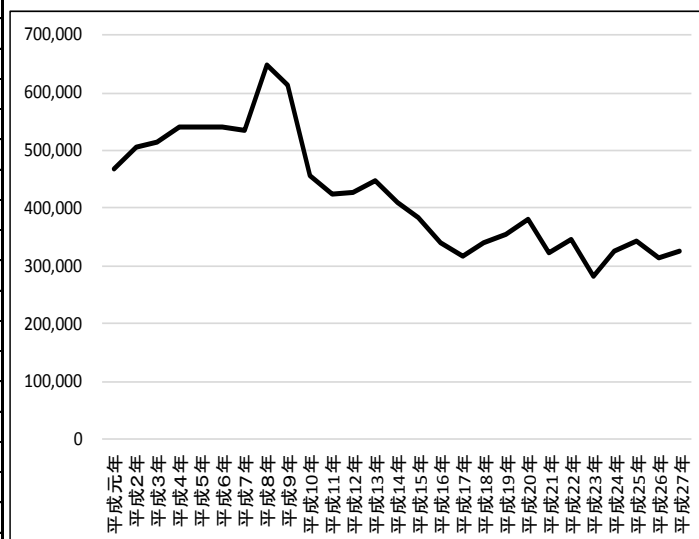
1 入山者数の状況

尾瀬が利用できる季節は道路開通後であり、おおよそ5月の大型連休後から10月末までであるが、同期間に環境省が各登山口に登山者カウンターを設置し、年間の尾瀬入山者数を計測している。この結果によれば、尾瀬の入山者は平成2年度から平成7年度まで50万人台前半で推移し、平成8、9年度にはテレビ等マスコミでの頻繁な尾瀬の紹介により60万人台前半に増加した。こうした利用者数の増加により、尾瀬の生態系への影響が懸念されたが、平成10年度には景気低迷と週末の悪天候から入山者数は約46万人に減少し、平成14年度までに40万人台で推移し、平成17年度には平成元年からの計測以来最低の約31万8千人となった。

平成20年度以降は尾瀬国立公園の拡張エリアを含めての数値だが、ここ数年は横ばい～微増傾向を示していたが、平成23年度には東北地方太平洋沖地震やそれに伴う原子力発電所の事故、また7～9月にかけて尾瀬や周辺の集中豪雨による木道流失・通行止め等が影響し、28万1千人と計測以来初の30万人を下回る結果となった。

平成27年度は、道路の陥没や集中豪雨による道路の一時通行止めがあったが、他の入山口に切り替えるなどの対応があったためか入山者数は前年度より増加している。

年度	入山者数 (人)	対前年比 (%)
平成元年	467,090	
平成2年	505,840	108.3
平成3年	515,090	101.8
平成4年	539,790	104.8
平成5年	540,264	100.1
平成6年	542,058	100.3
平成7年	534,196	98.5
平成8年	647,523	121.2
平成9年	614,317	94.9
平成10年	455,409	74.1
平成11年	425,807	93.5
平成12年	428,446	100.6
平成13年	448,041	104.6
平成14年	409,942	91.5
平成15年	384,251	93.7
平成16年	341,558	88.9
平成17年	317,847	93.1
平成18年	341,369	107.4
平成19年	354,901	104.0
平成20年	381,700	107.6
平成21年	322,800	84.6
平成22年	347,000	107.5
平成23年	281,300	81.1
平成24年	324,900	115.5
平成25年	344,200	105.9
平成26年	315,400	91.6
平成27年	326,100	103.4



尾瀬の入山者数の推移(環境省のデータから作成)

2 傷病事故の発生状況

平成27年度に（公財）尾瀬保護財団（以下、当財団とする）が管理を受託した尾瀬山の鼻ビジターセンター（群馬県より管理受託）及び尾瀬沼ビジターセンター（環境省所管施設）において、職員が対応を行ったものについて作成した。

（1）年別発生状況

平成27年度に当財団が管理する尾瀬山の鼻ビジターセンター及び尾瀬沼ビジターセンター職員が対応した傷病事故は93件で、平成19年度の109件、平成23年度の98件に次いで件数が多かった。

年度	区分	発生件数 (件)	傷病者内訳				
			死亡	病気	行方不明	負傷	その他
8年度		16	0		0	16	0
9年度		33	2		0	31	0
10年度		49	4		0	45	0
11年度		55	1		0	54	0
12年度		70	2		0	68	0
13年度		46	0		0	46	0
14年度		51	2		0	49	0
15年度		33	1		0	32	0
16年度		46	1		0	45	0
17年度		59	0		0	59	0
18年度		80	3		0	77	0
19年度		109	1		0	94	14
20年度		85	1		0	73	11
21年度		86	1		0	70	15
22年度		71	0		0	58	13
23年度		98	0	4	0	69	25
24年度		85	1	3	1	62	18
25年度		90	0	0	0	77	13
26年度		63	0	0	0	61	2
27年度		93	0	4	0	69	20

* 病気: てんかんやぜんそくなど明確な病気(体調不良は含めない)

* 負傷: 体調不良を含めないもの

（2）地域別発生状況

地域別では例年同様鳩待峠～山ノ鼻、尾瀬ヶ原の順で多く発生した。例年の傾向と比べると、尾瀬沼周辺での発生件数が増加している。また病気を原因とする傷病者が多かった。これは日常生活での体調管理や、無理な行程に起因する場合も考えられる。

鳩待峠～山ノ鼻の事故件数が全体の44.1%となり、前年度(42%)とほぼ同じであった。また尾瀬ヶ原の事故件数が全体の30.1%となり、鳩待峠～山ノ鼻と合わせると74.1%になり、地域別発生状況の中で大部分を占めている。

地区	区分	発生件数 (件)	発生比率 (%)	傷病者内訳					(参考) 平成26年
				死亡	病気	行方不明	負傷	その他	
鳩待峠～山ノ鼻(VC周辺含)		41	44.1		3		26	12	42
尾瀬ヶ原(研究見本園含)		28	30.1		1		16	11	13
大江湿原～尾瀬沼北岸(VC周辺含)		4	4.3				4		1
三平下～大江湿原		3	3.2				3		2
三平下～尾瀬沼南岸		2	2.2				2		0
沼山峠～大江湿原		3	3.2				3		0
大清水～尾瀬沼		3	3.2				3		0
沼尻～見晴		1	1.1				1		0
見晴～御池(平滑ノ滝、三条ノ滝含)		0	0.0						2
至仏山		2	2.2		1		1		0
燧ヶ岳		1	1.1				1		0
アヤマ平		0	0.0						1
その他		0	0.0						0
不明		5	5.4				1	4	2
合計		93	100.0	0	5	0	61	27	63

* 山ノ鼻地区3件(至仏山荘、山ノ鼻小屋、尾瀬ロッジ)周辺も含める

(3) 原因別発生状況

傷病事故に至った原因では、木道での転倒・転落による事故が66件と、全体の70.9%を占めており、木道整備区間が多い尾瀬国立公園の特徴を示している。原因は写真撮影や景色を眺めるなどよそ見による足の踏み外し、雨や雪で滑って転倒等様々である。木道は平坦ではあるが、杭の存在や高架になっている場所が多く、ちょっとした気の緩みが命に関わる大きな事故にもつながりかねない。また、病気などで歩行困難になる事例も少なからず見受けられるが、日常生活での体調管理や、無理な行程に起因する場合も多く、ゆとりをもった行動と装備は不可欠である。

入山者の気の緩みや不注意から生じる事故が多く、尾瀬利用者への注意喚起を行う等の呼びかけに力を入れていく必要がある。

原因	区分	発生 件数 (件)	傷病者内訳					(参考) 平成26 年度		
			死亡	病気	行方不明	負傷			その他	
						自力下山	搬送		自力下山	搬送
木道上の転倒		66				41	16		55	
歩道上の転倒		1				4			4	
病気		4		5					1	
疲労・低体温		1						5	0	
落石		0							0	
道に迷い		0							0	
雪崩・雪渓崩落		0							0	
落雷		0							0	
徒渉失敗		0							0	
その他		16						21	3	
不明		5							1	
合計		93	0	5	0	45	16	26	63	

* 疲労・低体温: 体調不良やふらつきなど

(4) シーズン別発生状況

今シーズン最も事故件数が多かったのは、例年同様に夏山時期であり、炎天下の行動が原因となって疲労・歩行困難を起こすものと思われる。また、この時期はハチ

に刺される等の事故も発生している。傷病事故を減らすためには、入山者の体調管理と事前の歩行計画、周囲への注意が必要になってくる。入山啓発活動をする際の呼びかけに力を入れていく必要がある。

シーズン	区分	発生 件数 (件)	傷病者内訳						(参考) 平成26 年度	
			死亡	病気	行方 不明	負傷		その他		
						自力下山	搬送	自力下山		搬送
春山(4・5・6月)		25		1		12	8	4		21
夏山(7・8月)		43		3		21	6	13		25
秋山(9・10・11月)		25		1		12	2	9	1	17
合計		93	0	5	0	45	16	26	1	63

(5) 月別発生状況

月別では、7月の発生件数が28件(30.1%)と最も多く、次いで6月(21.5%)となっている。この2ヶ月間の発生件数は入山者数に比例しているだけでなく、軽装や無理な行程などによる、木道上での転倒・転落による負傷が原因となっていると考えられる。

月	区分	発生 件数 (件)	傷病者内訳						(参考) 平成26 年度	
			死亡	病気	行方 不明	負傷		その他		
						自力下山	搬送	自力下山		搬送
4月		0								0
5月		5				1	1	3		7
6月		20		1		11	7	1		14
7月		28		3		15	3	7		12
8月		15				6	3	6		13
9月		13		1		6		6		5
10月		12				6	2	3	1	12
11月		0								0
合計		93	0	5	0	45	16	26	1	63

(6) 年齢別・男女別発生状況

年齢別では、40歳未満が15.1%、40歳以上が79.6%と、中高年の傷病事故割合が圧倒的に高い。特に50代・60代の事故が目立ち、この年代は救助隊によって搬送される重傷のケースも多い。男女別では女性の方が男性よりも2倍多く事故が発生している。

年齢	区分	発生 件数 (件)	男性						合計	比率 (%)	
			死亡	病気	行方 不明	負傷		その他			
						自力下山	搬送	自力下山			搬送
20歳未満		7					1	4	5	9.7	
20代		5					1	1	2		
30代		2						2	2		
40代		12				2	1	1	4	28.0	
50代		18				4		2	6		
60代		27		1		7	1		9		
70歳以上		16		1		5		1	7		
不明		6				1	1		2	2.2	
合計		93	0	2	0	19	5	11	0	37	39.8
比率			0.0	2.2	0.0	20.4	5.4	11.8	0.0	39.8	

区分 年齢	女性								比率 (%)	男女計 (%)	(参考) 平成26年 度
	死亡	病気	行方 不明	負傷		その他		合計			
				自力 下山	搬送	自力 下山	搬送				
20歳未満						2		2			
20代				1	1	1		3	5.4	15.1	11.1
30代								0			
40代		1		2	2	3		8			
50代		1		7	2	2		12			
60代				11	4	3	1	19	51.6	79.6	81.1
70歳以上		1		4	2	1		9			
不明				1		3		4	4.3	6.5	7.8
合計	0	3	0	26	11	15	1	56	61.3	101.1	100.0
比率	0.0	3.2	0.0	28.0	11.8	16.1	1.1	60.2			

(7) 傷病者の居住地別発生状況

例年同様に、東京都・埼玉県・神奈川県・群馬県を中心とした関東圏が大半を占めている（53.7%）。尾瀬登山者の居住地別割合をそのまま反映した結果と思われるが、近いために気軽な登山と油断してしまうことも原因と考えられ、時間や体力を考慮した計画と事前の準備が必要である。

また近年、関西方面からの団体ツアーの増加により大阪近郊を居住地にしている登山者の傷病事故件も発生するようになってきている。

都道府県	区分	傷病者内訳						合計	(参考) 平成26 年度	
		死亡	病気	行方 不明	負傷		その他			
					自力 下山	搬送	自力 下山			搬送
北海道							1	1	0	
岩手県								0	0	
宮城県					1			1	0	
秋田県								0	0	
福島県					1	1		2	0	
茨城県					1		1	2	1	
栃木県					1	1	1	3	1	
群馬県					4	1	1	6	4	
埼玉県					8	3	2	13	11	
千葉県					1	1	2	4	4	
東京都					9	3	1	13	16	
神奈川県			2		4	1	2	9	7	
新潟県					1	1	1	3	1	
福井県								0	0	
長野県								0	1	
山梨県								0	0	
岐阜県								0	0	
静岡県			1			1		2	0	
愛知県					2			2	2	
滋賀県								0	0	
和歌山県							1	1	0	
石川県							2	2	0	
富山県								0	0	
京都府			1					1	2	
大阪府					1	1	1	3	4	
福岡県								0	0	
熊本県								0	1	
大分県								0	1	
兵庫県							1	1	1	
奈良県			1		1			2	0	
愛媛県								0	1	
島根県								0	0	
岡山県								0	0	
広島県								0	0	
海外(中国)								0	0	
不明					10	2	10	22	5	
合計		0	5	0	45	16	26	93	63	

(8) グループ人数別発生状況

例年同様に2人以上の小グループの事故発生割合が51.1%と高く、搬送を伴う重度な事故も18件と多い。一方、近年単独行やツアー登山での傷病事故は減少に転じている。ツアーについてはガイドによる安全管理ができてきている可能性もあるが、単独行については単独で尾瀬に来る人数自体が減少している可能性も考えられる。

傷病事故発生時に手当やレスキューを真っ先に行うのは、本人や同行者であることが多い。また、重度な傷病事故の場合にはセルフレスキューが困難であることから、特に単独行は十分な注意が必要である。

形態	区分	発生 件数 (件)	傷病者						比率 (%)	(参考) 平成26 年度	
			死亡	病気	行方 不明	負傷		その他			
						自力 下山	搬送	自力 下山			搬送
単独		27		1		18	4	4		30.0	31.7
グループ		46		1		21	10	14		51.1	49.2
ツアー		13		3		5	1	3	1	14.4	14.3
不明		7					2	5		7.8	4.8
合計		93	0	5	0	44	17	26	1	103.3	100

*グループ:同行者が1名以上の場合は数に含める

(9) 傷病事故の通報状況

通報の約6割が、傷病者本人がビジターセンターや山小屋へ来所し、口頭で行っている。携帯電話の通話エリア圏外が大半の尾瀬では、直近の有人施設に駆け込む必要があるため、ここからビジターセンターへ連絡が入ることもある。

なお、尾瀬沼地区の山小屋やビジターセンターには、救助隊用の簡易無線が配備されているため、近隣の山小屋に駆け込まれた場合でも、迅速に救助活動を開始できるようになっている。

通報方法	区分	通報者					合計	比率 (%)	(参考) 平成26 年度
		本人	家族 同行者	他人	山小屋 救助隊	不明			
口頭		53	21	2	9		85	91.4	92.1
携帯電話							0	0.0	0.0
電話		1		1	2		4	4.3	3.2
アマチュア無線							0	0.0	0.0
その他無線					4		4	4.3	4.8
不明							0	0.0	0.0
合計		54	21	3	15	0	93	100.0	100
比率		58.1	22.6	3.2	16.1	0.0	100.0		

*山小屋・救助隊・ビジターセンター職員対応のものも含める

3 救助活動

(1) 傷病者対応時の出動状況

担架搬送の場合には、ビジターセンター職員は救助隊の臨時職員としても出動している。傷病対応は複数の機関が協力して活動するため、発生件数よりも出動回数人員が多くなっている。

年度	出動区分	消防	救助隊	ビジターセンター	一般	合計	発生件数(件)
平成 8年度		2	4	12	0	18	16
平成 9年度		12	20	10	0	42	33
平成10年度		8	33	16	0	57	49
平成11年度		9	28	27	0	64	55
平成12年度		11	18	45	0	74	70
平成13年度		9	21	22	0	52	46
平成14年度		9	14	31	0	54	51
平成15年度		8	10	19	0	37	33
平成16年度						0	46
平成17年度		16	12	35	0	63	59
平成18年度		17	22	77	0	116	80
平成19年度		10	18	106	2	136	109
平成20年度		15	12	68	0	95	85
平成21年度		16	18	86	1	121	86
平成22年度		21	22	69	0	112	71
平成23年度		15	15	98	0	128	98
平成24年度		16	19	85	0	120	85
平成25年度		7	16	87	0	110	90
平成26年度		12	12	63	0	87	63
平成27年度		19	24	68	1	112	93

* 消防: 防災ヘリを要請した場合(担架搬送も含める)

* 救急隊: 消防の件数+救急車のみ要請した場合

* ビジターセンター職員が関与しているものすべて

(2) ヘリコプター活用状況

傷病事故93件のうち19件でヘリコプターを依頼し、20人を搬送した。地域別では山ノ鼻地区16件、尾瀬沼地区3件となった(前年度は山ノ鼻7件、尾瀬沼0件)。今後も現場の救助組織と消防・防災ヘリとの連携を強化し、傷病者をより迅速に医療機関に引き渡せるよう体制整備を充実させる必要があると思われる。

年度	出動区分	依頼件数	負傷者救助	病人等救助	行方不明捜索	遺体収容	収容人数合計
平成 8年度		2	1	1	0	0	2
平成 9年度		5	3	1	1	0	5
平成10年度		3	3	0	0	0	3
平成11年度		5	5	0	0	0	5
平成12年度		7	5	1	1	0	7
平成13年度		6	6	0	0	0	6
平成14年度		6	4	1	1	0	6
平成15年度		6	4	1	0	0	5
平成16年度		7	7	0	0	0	7
平成17年度		12	8	4	0	0	12
平成18年度		8	3	3	0	2	8
平成19年度		11	6	4	0	0	10
平成20年度		13	10	3	0	0	13
平成21年度		9	7	2	0	0	9
平成22年度		17	14	3	0	0	17
平成23年度		14	10	4	0	0	14
平成24年度		15	11	2	1	1	15
平成25年度		7	7	0	0	0	7
平成26年度		9	8	1	0	0	10
平成27年度		19	14	5	0	0	20
合計		181	136	36	4	3	179

* 負傷者救助: 他の項目でその他に含まれていたものも含めて記載する